

## 「コミュニケーション力向上のために」

～日記指導の取り組みを通して～

中 学 部

### 1 はじめに

本校中学部は現在、生徒数5名である。現3年生の生徒が入学する前年は中学部の在籍がなく、一旦途絶えた中学部を改めて立ち上げた経緯がある。そのため、生徒も教員も新たな気持ちでスタートして3年目を迎えた。

新しい学習指導要領では言語活動の充実が重要視されている。言語を理解し、言語で思考し、言語で表現する力は社会生活を送る上で必要不可欠であるとともに、言語指導は豊教育の根幹でもある。またキャリア教育の視点からも、コミュニケーション能力を育むことが求められている。しかし、本校中学部の生徒はこの言語力に特に課題が多く、話していても質問に答えられえないなど一方的で未熟なコミュニケーションが目立つ上、先輩の言動から学ぶ機会もない。そこで、幼稚部・小学部からの取組を継続し、日常生活の中での具体的経験を言葉で表現する「日記」を毎日の課題とし、正しい言語で話したり書いたりすることを積み重ねて少しでもコミュニケーション力の基礎を作りたいと考えた。本研究では、過去2年間における日記指導の取り組みを中心に報告する。

### 2 研究の目標

日記の課題は、生徒の言語力の向上や思考力の構築を目指すものだが、今回の研究は日記指導の過程においてコミュニケーションすることも目標の一つである。教員側は日記を読んで内容について話しながら生徒の日常生活や日頃の考えを知るとともに、おおよその語彙力を把握することができる。また生徒側は日記の内容についてやりとりする中で、言語を用いて考える、体験や思いを言葉にして話す、といった書く以前の言語活動過程をたくさん経験することになる。それらの活動を通して的確な言語概念が形成されると考える。まずは個々の生徒の実態を把握し、それぞれの課題に応じた個別の指導を継続して、正しい表現が身に付くようにしたい。そして、日記指導の過程を通して相互の信頼関係を築き、コミュニケーション力の向上を図りたい。

### 3 研究の内容及び実際

#### (1) 中学部2年男子生徒

##### ア 生徒の実態

本を読むことが好きで、いろいろな言葉も知っているが、漠然と内容を把握している程度で深く理解しているとは言えない生徒である。言葉も曖昧に覚えていることが多く、書く作業によって、言葉を間違っていて覚えているという事実気付くことが多々ある。また、会話ではある程度文章を組み立てて伝えることができるが、文章にすることが非常に苦手である。日記は時系列で書くため、何をしたか説明するだけで終わり、何を伝えたいのかが分からない文になっている。長い文章になると助詞の誤用が多く、短い簡単な文章で終わらせることが多い。

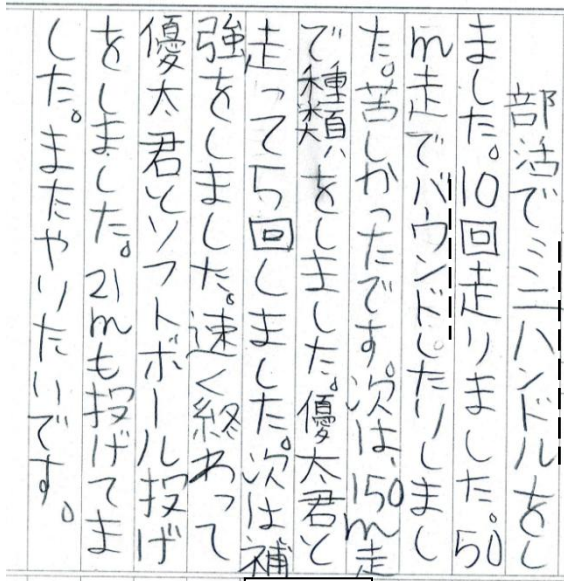


写真1

写真1の日記では、「ミニハードル」「バウディング」という単語を曖昧に覚えているため、「ミニハンドル」「バウンド」と誤用している。毎日の部活動でよく使用する言葉だが、本人の発音が不明瞭なため覚え違いを見逃しており、書くことによって初めて間違いを指摘することができる。また、主語や目的語がないことが非常に多い。この日記でも「苦しかったです。」とあるが、何が苦しかったのかの説明ができていない。そして、日記の結びは「またやりたいです。」「次も頑張りたいです。」など、パターン化した文章になっている。

イ 指導内容

毎朝日記を提出し、朝の会で間違っている文と一緒に考えながら訂正し、休み時間などを利用して書き直しをした。助詞「が」「を」「に」の同じ間違いを繰り返すことが多く、指導の際は、必ず過去の日記と照らし合わせながら行った。また、誤字脱字や平仮名書きが多いため、必ず見直しを行い、分からない漢字は国語辞典を使うよう指導した。

内容については、その日一番伝えたい出来事を1つ決め、その出来事について自分の思ったことや感じたことを書くように伝えた。写真1の例では、部活動の練習内容を短い文で時系列に並べただけであったため、どの部分を「またやりたい」のか伝わらない。そこで、書きたいことを決めてから書くように意識づけた。

表現に関しては主語や目的語が無いことが多く、「何が(誰が)」

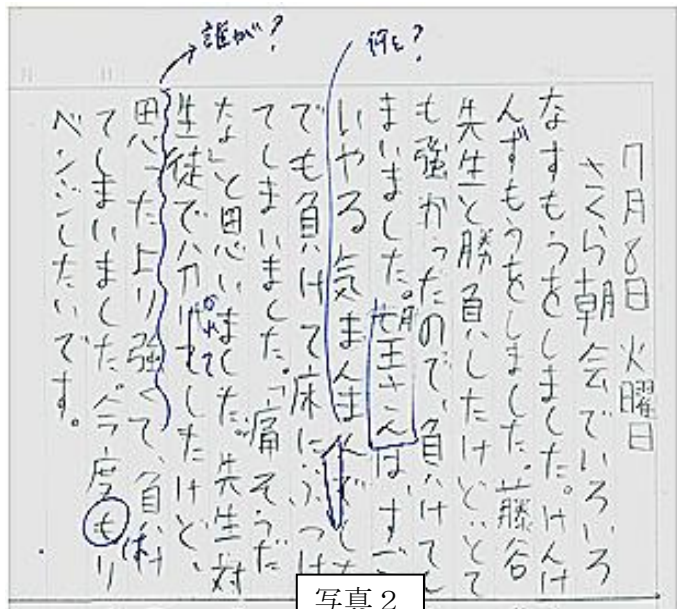


写真2

「何を(誰を)」の部分が抜けて説明不足になっているので、その都度、何が足りないのか一緒に考えた。(写真2)

ウ 考察

毎日の日記指導で改善されてきたことがある。それは、伝えたい出来事を決めて

書くことである。写真3の日記では、床掃除に話題を絞り、床がどのようなになったか詳しく書け、その時に感じたことも書けている。

また、これまでは日記の誤りを担任と一緒に訂正していたが、自分で訂正をするように指導したところ、意外にもきちんと訂正でき（写真4）、毎日の積み重ねが生徒の成長につながっていると感じられた。今後も継続して指導していきたい。

7月25日 金曜日  
部活で昨日と一緒に中一のAの教室を掃除しました。床をきれいになりました。洗剤で床を洗っていたので、みんなはよく滑っていました。特に優太君が痛そうでした。派手に乾かしたよあしと思いました。モッパでみがくと、いもきれいに仕上がりました。掃除機をかけている教室の床は、初めて見ました。きれいかったです。

写真3

8月12日 火曜日	サマーキャンプでカレーを作りました。火を付ける班を任せました。でも中々の火が付かなかったので、先生懸命に火を消さないように頑張りました。かまどの近くにいたので、カレーがこぼれてしまいました。かまどの近くにはいたので、カレーがこぼれてしまいました。かまどの近くにはいたので、カレーがこぼれてしまいました。
-----------	---

写真4

(2) 中学部3年女子生徒A

ア 生徒の実態

伝えたいという気持ちはあるが、語彙が非常に少なく、また文を組み立てることも難しいため、自己の経験を言葉で適切に伝えることができない生徒である。普段から話したいことは手話と身振りで積極的に伝えられるが、文を書くことは「勉強させられる」と捉えており、生活の中で言葉を使うという意識が低い。また、こだわりが強く、訂正されることや途中で指示されることを極端に嫌う面がある。文の読み書きや国語に対して苦手意識が非常に強く、日記には書きたいことを書くより簡単に書ける内容で済ませようとする。短い文章であっても単語の間違いや助詞の誤用が多く、内容がつかめないこともしばしばある。

写真5の日記では、「ダンス」という単語を曖昧に覚えているため、同じ日記の中でも「タンズ」や「ダンス」に間違っている。また、写真6の日記では理科の授業のことを書いているが、尋ねても状況を説明で

1月20日 月曜日	体育のダンスをしました。ウワロウズ、タンズをしました。私は、ウワロウズ、タンズをしました。私は、ウワロウズ、タンズをしました。
-----------	---

写真5

きず、内容が分からなかった。

写真6

#### イ 指導内容

毎朝日記を提出し、朝の会や国語の授業で書き直し、終わりの会の時に文章を覚えて言うことを繰り返した。当初は書きたい内容を書いていたが、自分の好きなゲームのことばかりで変化がなかったため、平日は学校であったことを書くようにし、話しながら書き直した。休日は好きなことを書き、月曜日に日記の内容について身振り手振りで話す内容を言語化した。

内容について伝わらないところは話して確認しながら書き直すが、訂正を嫌がるため、なるべく本人の表現を生かして訂正部分を少なくした。本人が抵抗なく受け入れるのは誤字と助詞の訂正である。これらは自分でも間違いやすいと自覚しており、指摘すると素直に訂正できる。写真5の例では「タンズ」→「ダンス」、写真6では「下思試」→「不思議」、「びっくり

りました。」→「びっくりしました。」などの誤表記を直すことができた。助詞「が」「を」「に」などの誤用については、その都度丁寧に指導している。

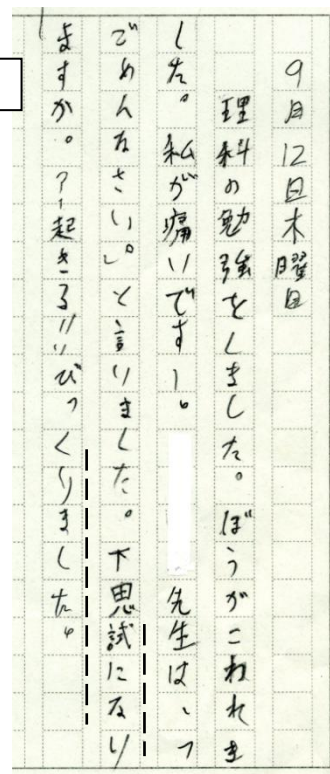
内容表現に関しては、指導が非常に難しい。知らない言葉に直すと、内容（体験した事実）まで否定されたと感じるようで、「違う」「（私が日記に書いた内容は）本当です。」と怒ったり全部消してしまったりする。体験から言葉を身に付けていきたいが、試行錯誤の毎日が続いている。出来事や気持ちを表す言葉や表現はいろいろあると理解できるよう努めたい。

#### ウ 考察

毎日4行の短い日記であるが、語彙や表現力の不足から内容が伝わらないことが多く、いろいろ質問をすると消してしまい、書きやすいパターンに変えてしまうこともたびたびであった。そんな中、何度も繰り返し書いたり訂正したりすることで身に付いたこともある。写真7（7月）にはできていなかった、「うれしかったです。」の内容が、写真8（12月）ではきちんと伝わるように書けた。

また、この生徒はこれまでパターン化した言い回しばかり使ってきたが、3月に入り初めて「なぜ」という表現が見られた（写真9）。これは、指導の際に「なぜ？ どうして？」という質問を繰り返してきたため、自分なりに理由を説明しようとした結果である。稚拙で間違いも多いが、相手に伝えようとする姿勢が初めて見られた日記である。これから少しずつでも説明ができるよう、指導を継続したい。

生徒にとって、日記は4行書けば済む簡単な宿題であり、訂正もその場限りで終わっている。話したいことが言葉でも表現できるように、日頃のコミュニケーションと言葉を結び付けることは、今後も大きな課題である。



12月8日 月曜日  
 今日、家に帰りました。私は、つれづれ  
 た。とさいました。イライラのたぐいさにも  
 りました。落ちてしまいました。うれしかった  
 びす。

写真7

12月19日 木曜日  
 今日、体育のサッカーをしました。試  
 合をしました。私は、つ女子のチームが勝ち  
 ました。やったー。と言いました。うれしか  
 ったです。

写真8

3月9日 日曜日  
 夜は、3時に寝りました。左せ、保健  
 を大変かゆえました。私は、つぐぐぐかえ  
 ます。と言いました。つかれた。寝りました。  
 保健のテストをひいびいしました。かんばります  
 …。

写真9

(3) 中学部3年女子生徒B

ア 生徒の実態

本校で一番聴力の厳しい生徒である。文章の  
 読解力は小学校3・4年程度である一方、漢字  
 やその読み方を覚えることは得意で学年相当の  
 漢字は知っている。しかし、その意味や概念の  
 理解は難しく、また単語の適切なイメージを持  
 ちにくい。「なぜ」のように意味や原因などの  
 関係性を問われること、また情緒の読み取りや  
 自分の考えや気持ちを表現することが苦手であ  
 る。写真10のように、日記も出来事や物事を短  
 文で羅列するだけで終わることが多く、表現の  
 誤りもよく見られる。発表や話し合い活動にお  
 いても、文章を覚えて言うことが習慣化してい  
 るため、何を言えばよいか分からない。

日記の文章については、使える表現が少ない  
 ためパターン化している。助詞の使い方が間違  
 っていたり、因果関係の説明やその時の気持ちが抜けたりするため、内容が理解し

今日、お母さんとおじさんと一緒にTSA  
 TAY Aに行きました。  
 本で10冊を借りました。お母さんは、本を  
 借りた6冊と私は本を借りた4冊でした。  
 花修羅③、④とねじまきカギユ②、③と  
 魔女は二度喘ぐ①S⑥を借りました。  
 ねじまきカギユ①と魔女は二度喘ぐの本は  
 見たことがないけど、初めて、見ました。

写真10

にくい時がある。少し長くなると、前後のつながりが自分にもよく分かっていないと思われる。

#### イ 指導内容

毎朝提出する日記をチェックし、その時の気持ちや感じたこと、理由や結果などが欠けている場合は朝の会の際に口頭で聞き出し、日記に書き込ませた。また、助詞や接続詞、表現の間違いの横に正しい日本語の文字数を○で示し、そこに入る言葉を考えさせた。(写真11)

言葉の言い回しや助詞、接続詞の使い方に慣れさせるため、毎日終わりの会で訂正された日記を清書し、覚えて発表させた。

#### ウ 考察

「に」と「を」を始めとする助詞の間違いが非常に多く、これらを指摘すると訂正できるようになったが、日記を書く時に最初から意識するまでには至らなかった。日常の会話でも助詞を意識的に用いて文章の形で話す練習が必要である。

また、「してもらおう。」「してあげる。」「する。」「される。」を用いた文は理解が難しく、自分では間違いに気付かない。今後の大きな課題である。

説明不足で分かりにくい文章については、口頭で問い掛けながら補うと、抜けていた状況や気持ちを説明できた。しかし、家で日記を書くとき、自分が分かることは相手も知っているつもりで文章を書くため、どうしても説明不足になり、理解できない内容になってしまう。詳しく書くように指導しても、人の名前や行った場所、食べた物の羅列になるなど、気持ちにつながる部分の説明ができない。「どのように」という様子を細かく説明する練習が今後も必要である。

また、気持ちを表す表現が「楽しかったです。」のようにパターン化しているため、感じたことや思ったことを教師が言語化し、様々な表現を口にし、書く機会を増やす必要がある。相手に分かりやすく伝えたり、「どうして」「どのように」などの質問に答えたりすることが苦手であるため、理解語彙を増やし、文章の形で因果関係を説明したり返事をしたりするやりとりを増やす必要がある。

この生徒は、1年次は、起こった出来事だけを書いてきたが、2年生になって自分の思ったことを少しずつ表現できるようになってきた。2年生の最後には、訂正がなくても伝わる文(写真12)を書くことができた。パターン化した感想にも少し変化が見られ、その気持ちになったときの様子を書くこともあった。間違いを指摘

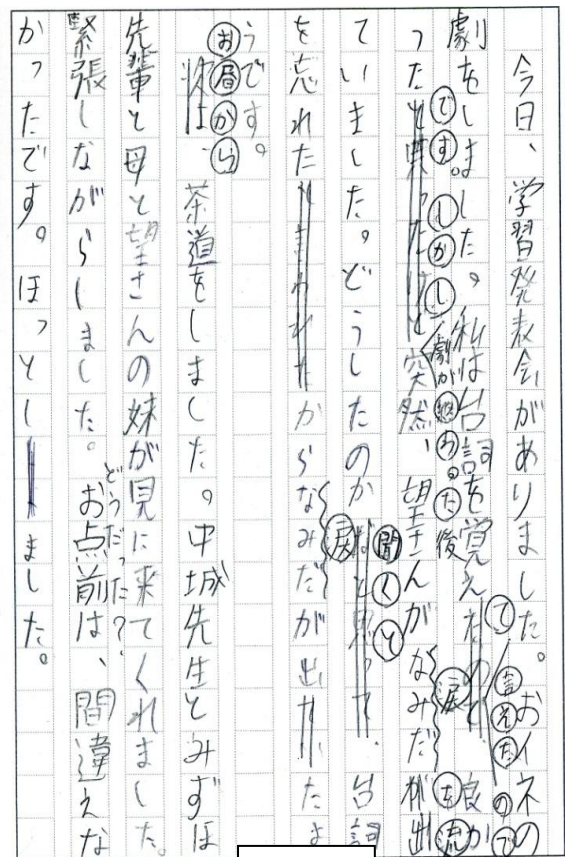


写真11

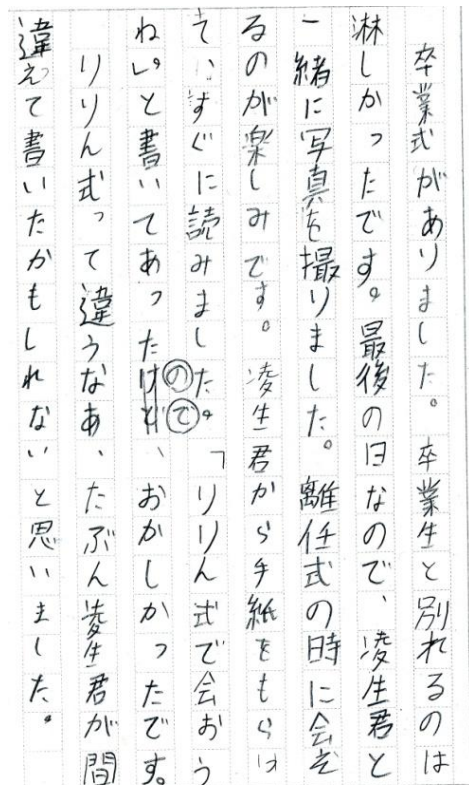
されると素直に訂正し、真面目に取り組んでいることから、今後心の成長とともに表現する力の成長にも期待したい。

写真12

(4) 中学部3年男子生徒（重複障害）

ア 生徒の実態

知的障害を合わせ有する生徒である。小学部5年生から本校に転入してきており、それまでは地元の小学校に通っていた。転入までは口話でのコミュニケーションが中心の生活であったが、本校転入後に手話を覚え始め、生徒同士では手話を交えてやりとりしている。家族や教員とは現在も口話中心で、日常会話で用いられる生活言語はかなり使えるが、「挑戦→そうせん」「建物→たけもの」など間違えて覚えている言葉も多く、書いたり指文字で確認したりしながらその都度訂正している。

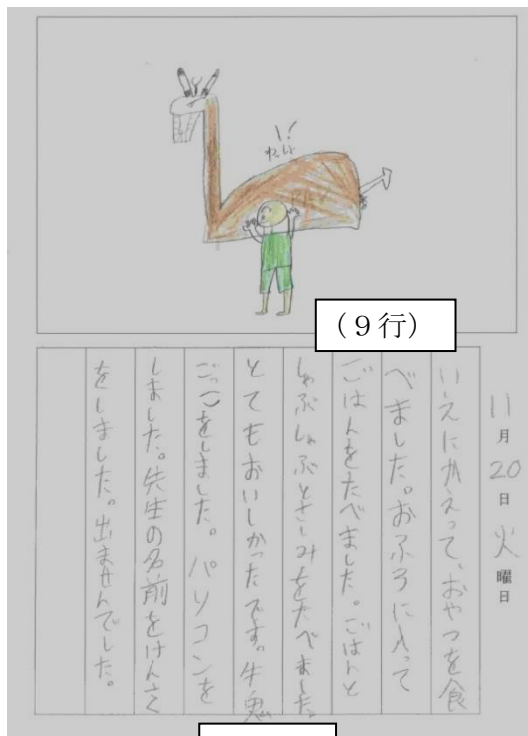


イ 指導内容

日記は絵日記の形をとって毎朝提出している。絵を描くことが好きな生徒であるため、書く意欲を持たせる狙いのほか、文では分からない内容が絵で伝わることもあり、絵から言葉を引き出す狙いもある。

1年次の日記では、その日にしたことを「～しました。」と羅列し、最後に「楽しかったです。」などの簡単な感想を書いて終わることが多かった。（写真13）そこで、まず「その日心に残ったことを一つ取り上げ、できるだけ詳しく書く。」ことを目標とした。毎日繰り返し言葉掛けし、時には例文を提示したりして、情景が読み手に伝わるよう指導した。少しずつ細かい表現ができるようになってくると、日記を書くスペースを広げて行数も増やし、字数を多くしていった。（写真14）文章表現としてはまだ稚拙であるが、様子や感情がよく伝わるようになってきている。また、書いた文章をワープロ入力する活動も並行して行った。（写真15）

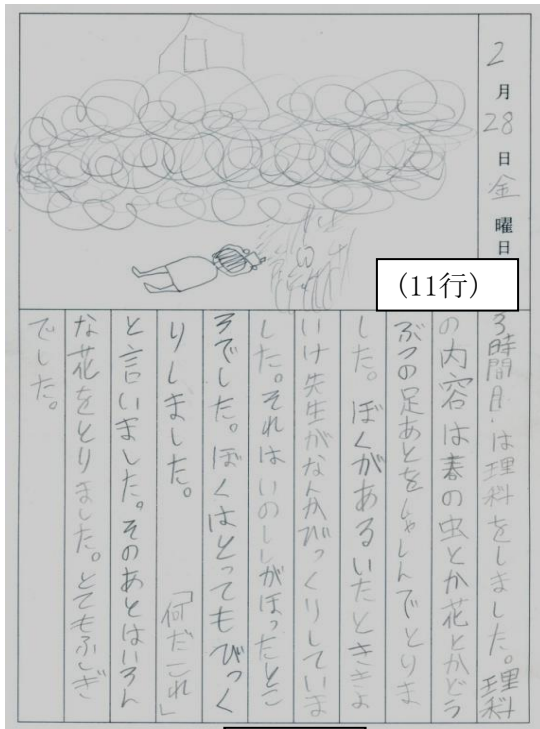
漢字の読みについては授業でも意欲的に取り組んでいるため、漢字学習に相乗効果が見られた。例えば「総合」を「きょうごう」と読み違えていたため正しく変換されず、そこで自ら間違いに気付くというように、言葉を正しく捉え直すことができた。漢字の書き取りは苦手であるが、ワープロ変換で何度も目にするうちに覚え、「風呂」など文章を書く際に使えるようになったものもある。キーボードの操作にも慣れて変換が速くなり、自分の考えた文章が活字として出来上がっていくことに達成感も味わっているようであった。



(9行)

11月20日 火曜日  
 いえにかえって、おやつを食  
 べました。お風呂に入れて  
 ごはんをたべました。ごはんと  
 しんぷんとさしみをとべました  
 とてもおいしかったです。牛乳  
 ごっこをしました。パソコンを  
 しました。先生の名前をけんこ  
 をしました。出ませんでした。

写真13



(11行)

2月28日 金曜日  
 3時間目は理科をしました。理科  
 の内容は春の虫とか花とかどう  
 ぶつの足あとをしゃんととりま  
 した。ぼくがあるいたときまよ  
 いけ先生がなにかびっくりしていま  
 した。それはいのししがぼくたど  
 りました。ぼくはどつてもびつ  
 りしました。「何だこれ」  
 と言いました。そのあとはいろん  
 な花をとりました。とてもおどろ  
 きました。

写真14

ウ 考察

「書く」「話す」「ワープロ変換する」という一連の活動を通して、助詞の誤用や漢字の誤読に気付き、正しい表現が少しずつ身に付いてきた。また表現力も向上し、その日の情景や感情が相手に伝わりやすくなってきている。

しかしながら文章表現はまだまだ未熟で、継続した指導が必要である。「楽しかったです。」というパターン化した感想を別の言葉で表せるように、会話をしながら気持ちを引き出しているが、なかなか言葉では説明できないのが現状である。日々の活動の中で、体験した内容と言葉をしっかりと結び付け、少しでも多くの言葉を獲得し活用できるよう、今後も支援していきたい。

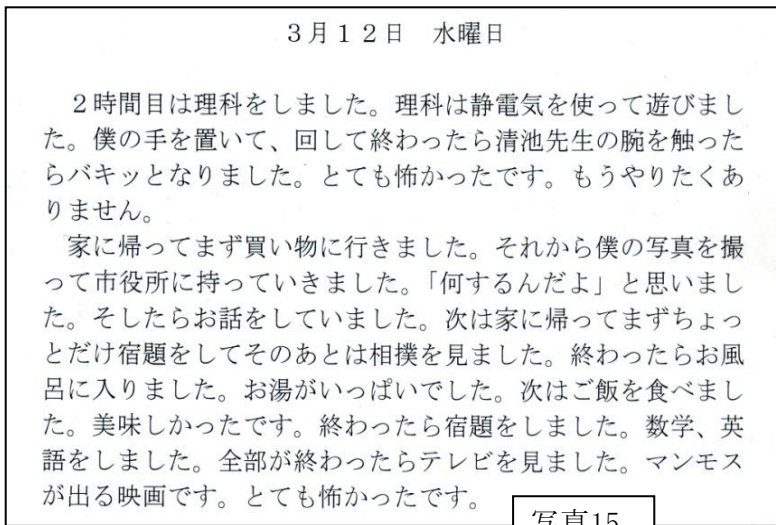


写真15

4 成果と課題

本校は児童生徒数が少ないため、学校行事でも授業でも全員が活動の主役である。そのため「何を書くか。」という日記の内容に困ることはほとんどなく、「どう表現するか。」に集中して指導ができ、また一対一での指導が可能であった。この利点を生



かし、それぞれの生徒の実態に合わせ、書きたい内容やその時の気持ちをすくいとして言葉に直していくことができた。言語化の過程で必然的にコミュニケーションすることにもつながった。

また、毎日の指導を通して生徒の生活や思考を知り、それによって説明不足の日記でも内容が想像でき、何が言いたいのか分からないというケースも減った。生徒は自らの経験を文章化し、その内容についてやりとりを続ける中で、何をどう伝えればよいか考えられるようになってきた。文法や漢字など細かい間違いはあるものの、自分なりの言葉で説明する姿勢が見られるようになった。一方的なコミュニケーションからは脱しつつあり、一つの成果といえる。

4名の生徒については、現在も日記指導を継続中である。日によって正しく書けたり間違いが多かったりとまちまちである。内容についても同様で、ワンパターンで退屈なこともあれば、学校外での意外な一面が分かることもあり、毎日変化がある。日記は生徒と教員のコミュニケーションに欠かせないものとなった。

しかし、経験不足による語彙の偏りや学習の困難さに起因する言語力の稚拙さは、現在の日記指導だけではカバーできない。日記は身の回りの生活言語を用いて書かれるため、複雑な心情や抽象的な概念について表現する語彙を使用する機会もなく、表面的な内容に終始している。いずれ社会で生活することを考えると、文章から情報を読み取る力が不可欠であり、抽象的な概念や書き言葉の語彙を増やすことが必要である。今後は「何を書くか」に関しても、内容に深まりが見られるようなテーマ設定を試みたい。